

秋がお
すすめ

No.23 万葉ロマン 晩秋の紅葉に たたずむ 万葉歌碑をめぐる

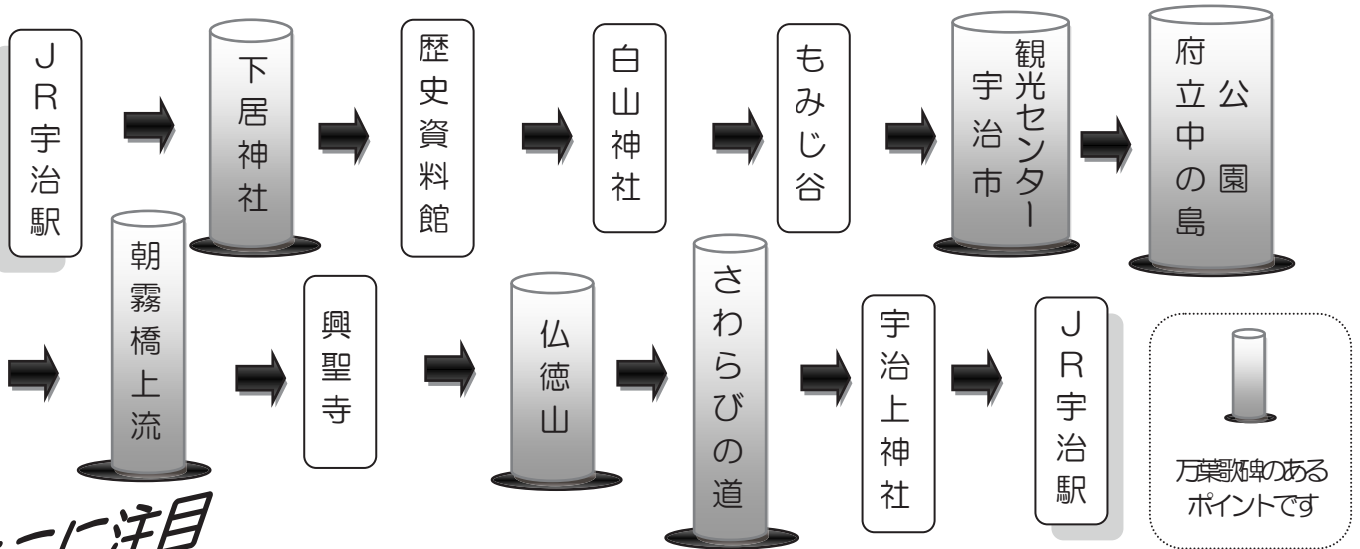
自然

歴史

万葉歌碑

おすすめポイント

いつの時代も美しい風景は人々の心に感動を呼び起こします。現存する最古の歌集といわれる万葉集には宇治の情景が多く詠まれています。JR宇治駅を後に下居神社から白山神社へと歩を進めると、そこにははるか昔から変わらぬ自然が旅人を暖かく迎えてくれます。秋色に染まるもみじ谷を抜けて宇治川畔へ。雄大な川の流流は脈々と続く歴史のようです。そして仏徳山（大吉山）の頂に着く頃には、あなた自身の万葉の歌が心の中に刻み込まれていることでしょう。そんな、ちょっぴり歌人気分を味わえる万葉の世界へとご案内いたします。



ここに注目

● さわらびの道万葉歌碑



大和の都から北陸や東国へと、数多くの万葉人が旅した道に佇む万葉歌碑。歌碑に刻まれているように、手作りした幣帛(ハカマ)を道々神に手向けて安全を祈りながら旅したことがしのばれる。

● 朝霧橋万葉歌碑



歌碑には「宇治川は淀瀬無からし網代人 舟呼ばふ聲をちこち聞ゆ」（作者不詳）と刻まれている。この場に立って流れを見ていると、網代人の舟を呼ぶ声が、あちこちから聞こえてくるような気がしてくる。

